

Man will
useful
man will not. Submit
to least
throughout the
world

he who
himself entirely

Put through
And
with return

private feelings
for
the
proportion as



JOHN CAGE/ESSAY sound installation

Writings through the Essay: On the Duty of Civil Disobedience
ジョン・ケージ／サウンド・インсталレーション
『エッセイ・市民の不服従について』

1993年4月20日—8月1日

P3 art and environment (ピースリー・アート・アンド・エンヴァイロメント) では、ロルフ・ユリウス『WIND』展(1991)、小杉武久『四つの装置』展(1991)、クリスティーナ・ケービッシュ『嘘と真』展(1992)に続くサウンド・インスタレーション・シリーズの第4回として、1993年にジョン・ケージ『エッセイ・市民の不服従について』展を開催いたします。

この作品は1987年の『ドクメンタ8』(カッセル)で発表された原型をP3の空間に合わせて再構成する日本バージョンで、我が国でははじめてのジョン・ケージ自身の指示による大型インスタレーションとなるものです。ヘンリー・ディヴィッド・ソローのエッセイ『市民の不服従』を下敷きにつくられたメゾスティック(ケージによって考案された詩の形式)を中心に、6脚の椅子、36台のラウドスピーカー、36台のCDプレイヤーとアンプ、コンピュータ制御された24個のライトなどでシステムが構成され、コンピュータによって様々に変調されたジョン・ケージの声が空間全体を満たします。

またP3サブ・ギャラリーにおいては、1980年制作のモノタイプ『ストリングス』を展示する予定です。これは1988年にLehigh大学での展示以来公開されていない貴重なもので、ジョン・ケージのチャンス・オペレーションに基づいて作られた、非常に美しい平面作品群です。

残念なことにジョン・ケージは1992年8月12日に亡くなられましたが、本展に関しては企画立案の当初から関与をいただき、1992年3月には、P3スタッフがニューヨークのスタジオにケージを訪ね、本人より直接インスタレーションに関する一切の指示を受けました。インスタレーションは、『ドクメンタ8』同様、アシスタントのアンドリュー・カルヴァーにより、ジョン・ケージの遺志どおり実現されます。

関連企画

コンサート

C.A.N. (Contemporary Artistic Nation)

6月6日(日)

Our Spring Will Come (1943)

鈴木一司(Pf.)

Trio (1936)

野村修、櫛引亮、鈴木一司(Per.)

Music for Piano No.3 (1953)

櫛引亮(Pf.)

Music for Piano No.20 (1953)

櫛引亮(Pf.)

Imaginary Landscape No.1 (1939)

伸手川豊(Pf.) 川村龍後(Per.) 井上美明、吉村恒(Electronics)

Piano Duet (1960)

森本誠士(Pf.) 村井啓悟(Cartridge)

Waiting (1952)

櫛引亮(Pf.)

Credo in Us (1942)

伸手川豊(Pf.) 吉村恒、川村龍後(Per.)

井上美明(Electronics) 富塚研二(Performance)

6月20日(日)

Primitive (1942)

櫛引亮(Pf.)

Music for Amplified Toy Pianos (1960)

鈴木一司、吉村恒(Toy Piano)

Suite for Toy Piano (1948)

櫛引亮(Pf.)

Duet for Electric Guitar (1960)

本間聖典(E.G.) 村井啓悟(Cartridge)

Telephones and Birds (1977)

井上美明 森本誠士 村井啓悟

Imaginary Landscape No.4 (1951)

吉村恒(Conductor) 井上美明、伸手川豊、櫛引亮、富塚研二、古川恒郎、鈴木一司、川村龍後、野村修、上原教郎、森本誠士、高橋秀樹、吉田寛(Radio)

7月4日(日)

Music for Marcel Duchamp (1947)

森本誠士(Pf.)

Song Books (1970)

富塚研二 順井宏子 岡崎由美子 さがゆき 野村修 高橋秀樹

伸手川豊 鈴木一司 吉村恒 井上美明 櫛引亮 古川恒郎

川村龍後 川村幸子 上原教郎 森本誠士 吉田寛 村井啓悟

7月11日(日)

A Dip in the Lake (1978)

古川恒郎 他 ※この曲は「環境を聞く」という解釈で具体化致します。

15:00よりP3付近の三ヶ所で行なわれますので、詳細は6月1日以降P3までお問い合わせください。

Bird Cage (1972)

古川恒郎 他

Water Music (1952)

川村龍後(instruments) 森本誠士(Pf.)

A Flower (1950)

さがゆき(Vo.) 野村修(Pf.)

Child of Tree (1975)

村井啓悟(Per.)

7月18日(日)

Root of an Unfocus (1942)

鈴木一司(Pf.)

Variations I, II, III, IV (1958-63)

川村龍後 富塚研二 野村修 高橋秀樹 伸手川豊 鈴木一司

吉村恒 井上美明 古川恒郎 上原教郎 森本誠士

8月1日(日)

In the Name of Holocaust (1942)

鈴木一司(Pf.)

Living Room Music (1940)

櫛引亮 鈴木一司 野村修 上原教郎(Per.)

Seven Haiku (1952)

(Pf.)鈴木一司

Cartridge Music (1960)

井上美明 櫛引亮 本間聖典 鈴木一司 森本誠士 村井啓悟(Cartridge)

ear for EAR (1983)

吉村恒 富塚研二(Vo.)

Inlets (1977)

川村龍後 川村幸子 上原教郎 森本誠士(Conch Shells)

河合拓始／平岩佐和子他 (構成／題名翻訳：江村夏樹)

5月20日(木)

4'33" (1952)

河合拓始 鈴木淳子

スピーチ (1960)

河合拓始 平岩佐和子 佐藤晴彦 江村桂吾 村井啓悟

6月24日(木)

アリア (1958)

平岩佐和子(Vo.)

彼女は眠っている (1943)

花 [A Flower] (1950)

18回目の春を迎える陽気な未亡人 (1942)

平岩佐和子(Vo.) 河合拓始(Per.)

6つの短いインベンション (1934)

岡本謙(AltoFl.) 中村めぐみ(Cl.) 岡崎耕二(Trp.)

安部美緒(Vn.) 亀井宏子、浅川文(Va.) 津森奈保子(Vc.)

2つの牧歌 (1951)

河合拓始(Prepared Pf.)

7月22日(木)

2つの小品 (1935)

河合拓始(Pf.)

フルートデュエットのための3つの小品 (1935)

黒川京子 岡本謙(Fl.)

クラリネットのためのソナタ (1933)

中村めぐみ(Cl.)

四季 [The Seasons] (1947)

河合拓始(Pf.) 濱沼章子(Dance)

チープ・イミテーション (1970)

安部美緒(Vn.)

小杉武久／高橋悠治／安井献

7月1日(木)／2日(金)

演奏予定曲

Variations IV (1963)

Cartridge Music (1960)

Winter Music (1957)

Branches [Child of Tree] (1975-76)

Four Walls (1944)

他

7月1日はミュージーサーカス的な演奏形式をとります。ミュージーサーカスとは、いくつもの出来事が同時に進行していくイベント形式の名称で、ミュージックとサークัสから成る合成語です。ケージの作品『ザ・エイシヨンズIV』を用いて演奏場所と開始時間を決め、演奏者は互いの音が交差するままに演奏を行ないます。当日は、場所と時間を記した地図形式のプログラムを配布しますので、会場内を自由に歩いて、聴きたい作品を自由に選ぶことが出来ます。

7月2日はオーソドックスなコンサート形式になります。ケージの作品を一曲づつ、じっくりと聴いていただくことになるでしょう。

レクチャー

『食と清貧』久司道夫(マクロビオティック) 5月23日(土)

『ジョン・ケージは影響を与えたか?』庄野進(音楽理論) 6月12日(土)

『バックミンスター・フラーのアナキズム』芹沢高志(地域計画) 7月17日(土)

『ソローと20世紀の末裔たち』金闇寿夫(英米文学) 7月24日(土)

マクロビオティック夕食会

第1回 5月30日(日)

第2回 6月27日(日)

第3回 7月25日(日)

予約は当日の一週間前まで受け付けます。定員50名とさせていただきます。
第2回目は「ソローの食事」を再現する予定です。

企画構成／調理

小島一弘(ナチュラル・ハーモニー)

川村幸子 波多野毅 石田光延 森覺摩 森邁由夏 井上淳之典 寺山恵理子

ジョン・ケージ／サウンド・インスタレーション 『エッセイ・市民の不服従について』

展覧会期間 1993年4月20日(火)～8月1日(日)

開館13時／閉館19時 曜休館

入場料

一般 ¥1,000-/学生 ¥800-/P3会員・小学生以下無料(展覧会最終日まで何度でも入場できます)

コンサート／レクチャー／マクロビオティック夕食会 19時30分開場／20時開演

入場料 一般 ¥2,200-/学生 ¥2,000-/P3会員 ¥1,800-(すべて共通)

関連企画 6回通し券 ¥8,000-

企画制作・主催 P3 アート・アンド・エンヴァイロメント

協賛 松下電器産業株式会社／株式会社資生堂

Heineken Beer

会場 P3 アート・アンド・エンヴァイロメント

〒160 東京都新宿区四谷4-34 東長寺地下

Tel: 03-3353-6866

メインギャラリー、サブギャラリー

※本展覧会は(社)企業メセナ協議会「メセナモデル研究会」推薦事業に選ばれました。

Sound by BOSE

